



doinel journal

September, 2015

Take Free

## Antonello

at doinel

09.05(sat.) - 09.22(tue.)

closed on wed.

昨年秋に開催してご好評をいただいた Antonello フェア、今年も 9/5(土) - 9/22(火)の期間で開催します。イタリア サルデーニャ島伝統の織物技術を用いた、イギリスのエコ・コンシャスなバッグレーベル Antonello (アントネッロ)。その最大の特徴である凹凸のある独特の織りは、糸の素材や色の組み合わせにより多様な表情を見せます。ファッションアイテムとして強いインパクトを放つ一方、トレンドに左右されずに長く使い続けることのできるアイテムです。通常は doinel オーダーの型と配色でご紹介していますが、フェア期間中は特別に多彩な型と色をご用意。普段なかなか一度に見ることのできない様々なパターンを一同にご覧いただける貴重な機会となります。今回は doinel での人気が高いシックなカラーを中心に、クラッチから肩掛けトートまで、使いやすいサイズを揃えています。ぜひ店頭でご覧ください。

### Antonell brand profile

イタリア・サルデーニャ島にルーツを持つ Antonello Tedde が手がけるイギリスのバッグレーベル、Antonello。使用される生地は、数百年に渡ってサルデーニャの女性の家内工業として継承されてきた伝統の手織り布。今も島の女性たちが、再生コットンや島で牧羊しているオーガニックウールを丹念に織りあげています。素材だけでなく製造行程も含めた純粋なサルデーニャ島産です。Antonello のバッグの魅力は伝統工芸を今の時代の空気にあったスタイルとして見事に表現していることです。一流メゾンでファッションデザイナーとしての確かな実力を培ってきた Antonello ならではの、クオリティーとファッション性、オリジナリティーを兼ね備えたバッグに仕上がっています。自然や人々への配慮を当然とし、伝統を享受しながらも新しい表現方法を模索し続けるアントネッロ。ものづくりにおいて大切な要素がたくさんつまった Antonello のバッグは、エコ・コンシャスで上質なバッグとして世界的に注目されています。

new arrival

HAMPSON WOODS “Serving Boards”



折れてしまった街路樹を用い、友人2人で少量の木工製品を作ったことから始まったメーカー、HAMPSON WOODS (ハン普森ウッズ)。材料の調達を含めたエシカルでサステナブルなサプライチェーンと、ていねいで配慮の行き届いた小ロット生産にこだわり、イーストロンドン・ハックニーにあるワークショップで木工製品のデザインと製作を行っています。ロンドンブレイン(プラタナス)のサービングボードは印象的な取っ手を持つ独特で有機的なフォルム。触覚にも訴える角のない美しい仕上げで、愛着の持てる存在感があります。木材の美しさを生かした、シンプルでエレガントな、長く使うことができるプロダクトです。

look at

Christiane Perrochon



Christiane Perrochon (クリスチャンヌ・ペロション) の器が再入荷しました。イタリア・トスカーナにあるアトリエで作られる Perrochon の器は、端正なフォルムの中にも手による制作ならではのゆらぎが感じられ、クラフトとも大量生産とも異なる趣が魅力です。約40年に渡り釉薬を研究し続け、様々なトーンの器を作る Perrochon ですが、doinel では素材の質感がより感じられるグレイッシュなトーンを中心にオーダーしています。今季は前回好評をいただいたピンク系や、初めての深いブルーグリーン系など、既存のセレクトにも馴染みつつ、新鮮な広がりを感じていただけるラインナップを加えています。

doinel standard

Bjørklund “Cheese Slicer”



1925年に創業した Bjørklund Sonner (ビョークルン)社は、ノルウェーで唯一であり世界で最初のチーズスライサーメーカーです。創業者の Thor Bjørklund が通常のナイフでチーズを切るたびに不満を感じていたことから、チーズスライサーが作られました。創業から90年間、今でもリレハンメルで生産される製品の品質は世界中から評価されており、ノルウェーの古き良きものづくりの象徴となっています。1925年パテントを取得したにも関わらず、世界中の多くのメーカーが同じようなスライサーを発売しましたが、チーズスライサーの原点は Bjørklund といえます。

vetements et accessoires

Les Précieuses

イベリア人のルーツを持つデザイナー Pili Collado (ピリ・コラード)による、ブリュッセルのコスチュームジュエリーレーベル、Les Précieuses(レ・プレシユーズ)。建築家として活躍するかたわらファッションデザインにも携わり、1997年にLes Précieusesが誕生。その作風は近年、よりアーティスティックに変化し、ガラス、ウッド、真鍮、クリスタルをメインに、建築家としてのバックグラウンドが感じられる構築的なデザインを展開しています。エレガントでありながら大胆さや独創性を併せ持ち、素材とカラーのコンビネーションやパーツのレイアウトの妙を純粋に楽しむことができるジュエリーです。



info. by doinel

SCHA “2015AW Collection”

9/26(土)より SCHA 2015AWを展開予定です。ドイツ、ケルンのデザイナー Ewa Kulasek (エヴァ・クラセク)による SCHA(シャ)の帽子は、すべて天然素材を用い、彼女の小さな工房で一つずつ手作りされています。長く使い続けられるシンプルさと親しみやすさ、洗練されたフォルムと現代的な軽やかさを併せ持ち、被る人や被り方、被る場所によってさまざまな表情を見せてくれます。人気の定番スタイルの他、SCHAならではのアートな感覚を楽しめるデザインも。SCHAの柔らかなウール素材は被りやすさ抜群、馴染みの良い存在感で、寒い時期の日常のアイテムとしておすすめです。



My favorite ○△×

My favorite “The Scent of Mediterranean plants”

サルデーニャに帰る時、飛行機から降り立つと薫ってくる地中海の植物の香りがたまらなく好きだ。なぜかこの香りは私が育った小さな村 Siligo での少年時代の記憶へといざなう。ちょうど夜明け前に目覚めた時のこと。キッチンから音が聞こえる。町から戻った父がミルクを温めるために火にかける音。朝露に濡れた草や土の香りが家いっばいに広がっている。香りと音。知らぬ間に香りと音によって当時の光景が記憶の中に刻みこまれているのだ。香りは夏休みの記憶も蘇らせる。埃っぽい小道の、村の教会裏にある織物小屋でのこと。織物をする祖母、その手が素早く淡々と織機を操る姿を見ていた。老人の手が織機を操り、細部まで間違えずに動くのが不思議で仕方なかった。動き続ける手から素晴らしいものが生み出されるのをずっと眺めていたい、ただただそんな気持ちになった。私は祖母の前に座って眺めていた。サルデーニャの女性たちが織った床に届く程の長さのプリーツスカート、キャンディーなどちょっとしたサプライズが入っているスカートの隠しポケット、首元に結ばれたハンカチーフ。



そして魔法が始まった。突然布の上で魔法が形になって現れた。狩りをする人、鮮やかな羽根を広げる鳥、艶やかな洋服をまとう人々。その細かな模様、色や形、そして貴重な技術、私にとっては祖母の生み出す織物こそが魔法のように感じられ、魅せられてしまった。このような経験は全て今の私の仕事に繋がっている。昔の祖母やそのまた母と全く同じように、日常生活の中でものの作りの欲求が起こる。飛行機から降り立つ時の香りは、少年時代からずっと私の想像力によって秘められていた想いを自然と沸き上がらせる。

📍 Antonello Tedde (Antonello デザイナー)

イタリア・サルデーニャ島出身。イタリアで経済学を専攻、The London College of Fashionでファッション、小売を学ぶ。メゾンブランドでデザイナーとしてのキャリアを積んだ後、エココンシャスな素材を用いた、サルデーニャの女性たちの手織り布による「エコ・ラグジュアリー」なバッグをプロデュース。

## doinel

[ location ]

3-2-9 Kita-Aoyama, Minato-ku, Tokyo 107-0061

It is 3 minutes' walk from Gaienmae Station

of Ginza Line to doinel.

Open 12:00 - 20:00

Closed Wednesday

[ contact ]

tel +81-(0)3-3470-5007

info@doinel.net

↑ a\_doinel

↑ doinel

